

日本學研究叢書17



「自由・平等・植民地性
—台湾における植民地教育制度の形成—」
山本和行 著

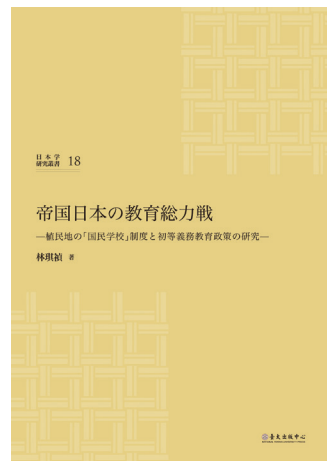
日治時期臺灣近代教育制度的形成受到哪些影響？
如何使臺灣步上殖民地化的歷史進程？

本書的課題是解釋臺灣近代「殖民地性」的教育制度在哪些歷史條件影響下形成。本書關注1890年代在日本「內地」教育界討論的教育「自由與平等」、「國家與地域」問題，也檢討1890年代在「內地」日本與「外地」臺灣雙方教育制度的形成過程。在這些考察成果上，試圖具體地解釋臺灣近代教育制度在各式各樣的時代因素下，最終獲得「殖民地性」的過程。

台湾の近代的教育制度は、いかなる歴史的條件に規定され、「植民地性」を帯びたものとして形成されるに至ったのか。本書では、台湾が日本の植民地となった1890年代に日本「内地」の教育界で議論されていた、教育の「自由と平等」、「国家と地域」をめぐる議論に注目し、1890

年代における「内地」日本と「外地」台湾の双方における教育制度形成の展開過程について検討する。そのうえで、台湾の教育制度がさまざまな時代要因のなかで、結果として「植民地性」を付与されるに至るプロセスを、具体的・実証的な視点から明らかにする。

日本學研究叢書18



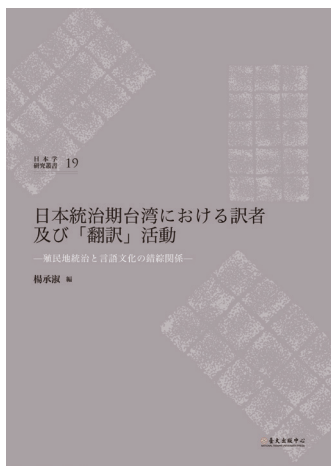
「帝国日本の教育総力戦 — 植民地の「国民学校」制度と初等義務教育政策の研究 —」
林琪禎 著

日本帝國於二次大戰期間實行了總力戰體制，本書對於總力戰體制下的國民學校展開深入的研究。

本書所探討的國民學校，是日本帝國於太平洋戰爭期間所推行的初等教育制度，將原本的小學校悉數改制為國民學校，殖民地的義務教育也在此時獲得實施。國民學校最大的特徵，在於連同殖民地臺灣及朝鮮一起施行，同時推行所代表的意義很大，具有進一步探討的價值。本書即是透過對此問題的探討，思考日本帝國在帝國統合上所面臨的艱難課題。

本書でいう国民学校とは、帝国日本がアジア太平洋戦争期に施した初等教育制度である。当時、従来の尋常小学校はすべて国民学校という名称に変更され、義務教育も植民地で実施された。国民学校制度の最大の特徴は、日本内地だけでなく植民地台湾と朝鮮で同時に確立した点にあり、そこには大きな意味合いが含まれる。本書はこの制度をとりあげ、帝国統合の難問が戦時期に直面せざるをえなかった側面を描き出す。

日本學研究叢書19



「日本統治期台湾における訳者及び「翻訳」活動——植民地統治と言語文化の錯綜関係——」

楊承淑 編

本書以臺灣日治時期殖民統治為研究範疇，旨在探討當時的譯者與翻譯活動，著重於殖民統治下譯者的角色功能，以及譯者在語言文化上的「翻譯」活動。曾在亞洲擁有最廣闊殖民地的日本，也同樣未在其歷史研究（無論日本史或東洋史）中正視日本在亞洲的殖民史。寄望透過譯者的內在視角與外在活動，對殖民時期介乎統治者

與被統治者的見證人——譯者的論述，進行深入的探究與剖析。

本書は台湾の植民地統治を研究対象とし、その時期の翻訳者と翻訳活動の探求を主旨としたもので、主として植民地統治下における翻訳者の役割としての機能及び訳者の言語文化における翻訳活動にある。アジアにおいて過去に植民地を最も広く有した日本もまた、同様にその歴史研究（日本史学であれ東洋史学であれ）において、アジアでの日本の植民地支配の歴史を正視していない。本書は以上の視点に基づき、訳者の内在的視点と外在的活動を通して、植民地時期において統治者と被統治者を介在した証人としての訳者の言述に対して、考察と分析を深めたものである。

日本學研究叢書20



「東アジア情勢の転換とアベノミクスの影響」

蘇顯揚、魏聰哲 編

最近東亞經濟局勢有較大的變化，不僅中、日、韓三國均更換領導人，亦皆祭出經濟新政策。

尤其日本安倍政權推出備受注目的「安倍經濟學」三支箭：包括大幅金融寬鬆對策、機動性的財政政策以及成長戰略等。臺、日、韓等地的學者專家分別由安倍經濟學的內涵及其對各國的影響、臺日企業合作契機等角度，分析東亞局勢轉變下，日本實施安倍經濟學所帶來的影響。

最近の東アジア經濟情勢には比較的大きな変化が見られる。中、日、韓の三カ国でいずれもリーダーが交代したのみならず、新たな經濟政策も打ち出された。特に日本の安倍政權は大胆な金融緩和政策、機動的な財政政策、それに成長戦略からなる「アベノミクス」の三本の矢を打ち出すことで注目を集めている。台、日、韓の学者や専門家等が、アベノミクスの概要と各国への影響、台日企業連携の契機等の角度から、それぞれ東アジア情勢が轉換する中、日本のアベノミクスの実施がもたらす影響について分析した。◆

日本學研究叢書一覽（1-16）

1	国際日本学研究的の基層 —台日相互理解の思索と実践 に向けて—	徐興慶、太田登 編
2	国際日本学研究的の最前線に向 けて—流行・ことば・物語の力—	林立萍 編
3	日本近現代文学に内在する他 者としての「中国」	范淑文 主編
4	日本中世文学における儒釈道 典籍の受容 —『沙石集』と『徒然草』—	曹景惠 著
5	東アジア龍船競漕の研究 —台湾・長崎・沖縄の比較—	黃麗雲 著
6	現代日本語造語の諸相	林慧君 著
7	轉換中のEUと「東アジア共同体」 —台湾から世界を考える—	徐興慶、陳永峰 主編
8	近代東アジアのアポリア	徐興慶 編
9	朱子学と近世・近代の東アジア	井上克人、黃俊傑、 陶徳民 主編
10	明治日本における台湾像の形成 —新聞メディアによる1874年 「台湾事件」の表象—	陳萱 著
11	日本昔話語彙の研究	林立萍 著
12	非断定的表現「(し)そうだ」に関 する語用論的考察	黃鈺涵 著
13	詩に興り礼に立つ ——中井竹山における『詩経』 学と礼学思想の研究	田世民 著
14	台湾法における日本的要素	王泰升 著
15	石川啄木詩歌研究への射程	林水福、太田登 編
16	台湾に生まれ育つ台日国際児の バイリンガリズム	服部美貴 著

※在日本欲購買本叢書請洽紀伊國屋書店。

本叢書は日本の紀伊国屋書店でお買い求め
いただけます。